

## ～今だから見直せ！少年サッカー教育～

### チームオガスティ V2

白田 直人 石井 亮輝 篠田 悠人

金城 洸盛 小山 隆文 船橋 和真

#### 1－緒言

##### 1－1 研究のきっかけ

日本サッカーがここ最近勝つことが難しくなっていて、日本サッカーのレベルが落ちている。そこでゴールデンエイジである、少年サッカーを今までより力を入れて強化し下の世代から底上げをする政策を私たちは提案する。

近年、サッカーが世界的に強くなることはその国の先進国としての表現なるからだ。

##### 1－2 研究目的

現在、日本の代表が世界、アジアで勝つことが難しくなっていて、そこで少年サッカーの世代でゴールデンエイジの時期のサッカー育成を見直し、若い世代からのレベルの向上が目的である。

#### 2－少年サッカーの良いところ

サッカーは、教育の中でもよく使われていて、全国で小学校の保健体育の授業での普及率は限りなく100%に近く、身近なスポーツになっている。

また、サッカーは他の球技スポーツに比べて、揃える用具が多くはない。このことから、あまりお金をかけずに、全力で楽しむことができる。

少年時代にスポーツをやるとなぜ良いかというと、その時期が、ゴールデンエイジと呼ばれる時期に相当しているからだ。5～12歳頃（小学1～6年生）が、成長期に入り運動能力が大きく伸びる時期になることから、効果的なトレーニングをすることにより、大きな成長が期待できる。子どもたち自らの成長力を最大限に活かせるこの時期こそが、子どもの長所をより伸ばし、そして短所さえも克服させてしまう人生で一度しか訪れない絶好のチャンスなのだ。つまりその時期にサッカーを取り組めば将来の日本サッカーが世界の頂点に立つことも可能になるのだ。

#### 3－日本サッカーが世界で戦い勝つためには

サッカー大国で何度も世界一になっているブラジルは、サッカーどころか他のスポーツですら満足にやることは出来ない。資金もなく、裸足でボールを蹴る子供や、ボールを紙で丸めて作りと、環境がとても悪い。それでもなぜブラジルが強いかというと、驚くべき点は少年サッカーの全国大会は行われれないということである。なぜかかというと、勝ちに執着しすぎて子供なのにサッカーを楽しむ気持ちを忘れてしまうからである。子供のうちは純粋で

何にでも興味を示す為、サッカーを楽しませ長く続けてもらいたい。

だからといって日本でも少年サッカーの全国大会を廃止するといったブラジルの真似事をして運動能力に差が出て、失敗する場合がある。だから日本のサッカー教育には、少年サッカーでプロと同じコーチを雇わせる。やはり、子供のうちが1番伸びる時期なので、サッカーを楽しみ向上させるといったことを教育方法とする。

#### 4－子どもの運動不足、体力低下の原因

近年、日本の子供は確実に体力が低下している。高齢化が進む中、若者が貧弱になっている。

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子供の体力・運動能力の低下していることが明らかになっている。現在の子供たちは30年前の子供たちと比べて体格は大きくなってきているのだが、基礎的な運動能力（50m走、ソフトボール投げ）では、明らかに低下している。

30年前の11歳男子の50m走の平均は、8,74秒そして今の11歳の男子は、8,89秒でデータを見るだけでも明らかである。

その子どもの体力低下の原因は、保護者をはじめとした国民の意識の中で、子どもの外遊びやスポーツの重要性を軽視するなどにより、子どもに積極的に体を動かすことをさせなくなった。子どもを取り巻く環境については、生活が便利になるなど子どもの生活全体が、日常的に体を動かすことが減少する方向に変化した。

スポーツや外遊びに不可欠な要素である時間、場所が減少した。

学校の教員については、教員の経験不足や専任教員が少ないなどにより、楽しく運動できるような指導の工夫が不十分との指摘が出ている。

子どもの生活習慣の乱れが見られる現在の日本の子供達は、家でゲームをし、外で遊ぶ機会が減ってきている。それにより体力低下、運動神経の衰えが起きている。

子どもたちにおいては、学校週5日制の完全実施により、自由時間が増したにもかかわらず、体を動かす機会の減少から体格の向上に相反して、体力・運動能力が低下しているという現状が明らかになっている。

#### 5－政策

～教育の中にサッカーのふれさせる機会を～

サッカーを一つの教科とし時間割に入れる。

サッカーを体育の授業から独立させサッカーの授業を一つの授業の1コマとして置き、専門知識から技術の向上のための教育を行う。授業を行うにあたっては、サッカーの授業を

指導する先生をサッカー協会から配属してもらう。

その先生には、サッカー協会が認めた指導者ライセンスを所得している人を配属してもらう。さらにサッカーの先生たちの給料は、15年度の収益決済が12億年の黒字になったサッカー協会に支払ってもらう。

中学校の保健体育の授業の必修にヒップホップダンスが導入されたが、それと同じとまでは言えないが、サッカーを一つの科目として独立させ一年間を通して授業を行いたい。サッカーを体育と別に授業に取り組むために小学校の3, 4, 5, 6年生の授業にサッカーというコマを週に1回設け、4年間を通してサッカーの基礎から体の成長のために必要な運動のことを学ばせる。高学年から行う理由としては、高学年になると、ある程度運動が出来る体つきになり、理解度も増す。そのときにしっかりとした体作りをもとにサッカーを学び、運動能力を高めていく。

サッカーの授業をするにあたってまず対象の小学校は、全国の公立の小学校 20302 校（2015年当時）とする。2015年度の指導者ライセンス所得人数は78570人である。その中から各学校に1人または2人ずつくらい配属させる。強制ではなく挙手制で、「子供にサッカーを教えたい」「日本サッカー界を盛り上げたい」などやる気のある人をその近くの公立小学校に配属させる。給料に関しては、その授業を1コマにつき5千円の感じで働いた分の給料が支払われるシステムでやってもらう。例えば3年生～6年生までの各学年が3クラスずつあるとすると、週に12コマで、1か月に48コマとすると月に24万円もらえるということである。なおそのサッカー講師は一か月ごと更新するようにし、配属1か月前に手続きを行い翌月にその小学校に行き講師としてサッカーを指導する。

サッカーを時間割に入れるために国語、算数、社会、理科、道徳の授業のコマを少し減らし、年間に35コマ、週に1回のペースで授業を行う。

図1

	国語	算数	社会	理科	道徳
第3学年	235	150	70	70	35
第4学年	235	150	85	90	35
第5学年	180	150	90	95	35
第6学年	175	150	100	95	35

図2

	国語	算数	社会	理科	道徳	サッカー
第3学年	220	140	65	66	34	35
第4学年	220	140	81	85	34	35
第5学年	170	140	84	87	34	35
第6学年	165	140	91	90	34	35

図1は現在の小学生の国語、算数、社会、理科、道徳の各学年の1年間のコマ数である。そこから図2のようにコマ数を減らし、減らした分をサッカーのコマにあてる。小学生の勉強の理解度は向上しているため各授業数を減らし、その減らした分をサッカーにあてる。

サッカーを体育とは別に授業組み込む事によって、サッカーに触れ合う機会を増加させる事が出来る。体育という授業の中では、サッカーをやる機会があまりない。ここでサッカーを授業として組み込む事により、サッカーへの興味が増え、サッカーをやりたいという子供が増え、結果的にサッカー人口増加へとつながる。

サッカー人口が増えれば、スター選手の発掘の可能性も増える事になる。「数を打てばあたる」という言葉があるように、1000人、2000人いや10万人の中に今の世界で活躍するメッシ選手のような国の宝になるような選手が出てくるかもしれない。この事から、サッカーを授業へと組み込む事によって、日本サッカーの強化へとつながる。

#### まとめ

日本サッカーを強くするためにサッカー教育を見直すだけでは足りず教育委員会との連携が必要である。サッカー協会と教育委員会がうまく協力し、子供たちの育成を徹底することが強化につながるし、今の若者の運動不足、体力低下の改善にもつながる。

そしていつの日かサッカー日本代表がワールドカップ、オリンピックで世界一になるときを信じている。

#### 参考文献

文部科学省 現在の標準授業日数について

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/07061432/005/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/07061432/005/001.htm)

ベネッセ教育総合研究所

[http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/syo/hon2\\_1\\_02.html](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/syo/hon2_1_02.html)

日本経済新聞

[http://www.nikkei.com/article/DGXLSSXK00428\\_Z20C15A3000000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLSSXK00428_Z20C15A3000000/)

文部科学省

<http://www013.upp.so-net.ne.jp/challengesquare/pdf/kidspaper.pdf>

JFA 指導者ライセンス所得数

[https://www.jfa.jp/about\\_jfa/organization/databox/coach.html](https://www.jfa.jp/about_jfa/organization/databox/coach.html)